

日蓮大聖人御書全集

ぎじょうぼうごしょ

義淨房御書

新版

1196

§

1197

ぎじょうぼうごしょ

義淨房御書

文永 10 年 ('73) 5 月 28 日 52 歳 義淨房

御法門のこと、委しく承り候い畢わんぬ。

法華経の功德と申すは、唯仏与仏の境界、十方分身の

智慧も及ぶか及ばざるかの内証なり。されば、天台大師も、

妙の一字をば「妙とは、妙は不可思議に名づく」と釈し

給いて候なるぞ。前々御存知のごとし。しかれども、こ

の経において重々の修行分かれたり。天台・妙楽・

伝教等ばかりしらせ給う法門なり。なかんずく伝教大師

でんぎょうとう

知

たも

ほうもん

でんぎょうだいし

は、天台の後身にてわたらせ給えども、人の不審を晴らさんとや思しめしけん、大唐へ決をつかわし給う事多し。されば、今經の所詮は、十界互具・百界千如・一念三千といふ事こそ、ゆゆしき大事にては候なれ。この法門は摩訶止觀と申す文にしるされて候。

次に寿量品の法門は、日蓮が身にとつてたのみあることぞかし。天台・伝教等も、ほぼしらせ給えども、言に出だして宣べ給わず。龍樹・天親等も、またかくのごとし。寿量品の自我偈に云わく「一心欲見仏 不自惜身命（一心

じゅりょうほん

じ が げ

い

いっしんよくけんぶつ

ふじしゃくしんみよう

いっしん

てんだい ごしん

たま

ひと ふしん

は

おぼ

だいとう

けつ

遣

たも

ことおお

こんきょう

しょせん

じつかいごぐ

ひやつかいせんによ

いちねんきんぜん

れば、今經の所詮は、十界互具・百界千如・一念三千とことおお

こと

だいじ

そうろう

ほうもん

いう事こそ、ゆゆしき大事にては候なれ。この法門は

まかしかん

もう

ふみ

そうろう

ほうもん

摩訶止觀と申す文にしるされて候。

つぎ

じゅりょうほん

ほうもん

にちれん

み

持

次に寿量品の法門は、日蓮が身にとつてたのみあること

てんだい

でんぎょうとう

知

たま

ことば

い

ぞかし。天台・伝教等も、ほぼしらせ給えども、言に出だして宣べ給わず。龍樹・天親等も、またかくのごとし。

の

たま

りゆうじゅ

てんじんとう

たま

ことば

い

てんだい

でんぎょうとう

知

たま

ことば

い

に仏を見たてまつらんと欲して、自ら身命を惜します）
云々。日蓮が己心の仏界を、この文に依つて顯すなり。そ
の故は、寿量品の事の一念三千の三大秘法を成就せること
と、この経文なり。秘すべし、秘すべし。
叡山の大師、渡唐して、この文の点を相伝し給うところ
なり。「一」とは一道清淨の義、「心」とは諸法なり。されば、天台大師、「心」の字を釈して云わく「一月三星・
心果清淨」云々。日蓮云わく「一」とは妙なり、「心」とは法なり、「欲」とは蓮なり、「見」とは華なり、「仏」とは法なり、

きょう

ごじ ぐつう

ふじしゃくしんみよう

は 経なり。この五字を弘通せんには、「不自惜身命」これ
なり。一心に仏を見る心を一にして仏を見る一心を見れ
ば仏なり。無作の三身の仏果を成就せんことは、恐らくは、

天台・伝教にも越え、龍樹・迦葉にも勝れたり。

相構えて相構えて心の師とはなるとも心を師とすべか
らずと仏は記し給いしなり。法華経の御為に身をも捨て
命をも惜しまざれと強盛に申せしは、これなり。

なんみようほうれんげきよう なんみようほうれんげきよう
南無妙法蓮華経、南無妙法蓮華経。

ぶんえいじゅうねんごがつにじゅうはちにち

文永十年五月二十八日

にちれん

日蓮 花押

かおう

義淨房御返事
ぎじょうぼうごへんじ